

平成20年7月1日

埋蔵文化財と文化財建造物の情報誌

文化財センター季刊情報誌

【かざぐるま】

風車

紀州の歴史と文化の風

2008夏号

43

財団法人 和歌山県文化財センター

特集

新誌面になりました！

藤並地区遺跡の発掘調査

速報展示「紀州の歩み」

連載

文化財建造物課短信

考古学の散歩道

「紀ノ川流域の古代寺院」

きのくに歴史小話

「建築彫刻の話」

「発掘屋余話」

表紙写真：藤並地区遺跡

文化財センター通信『風車』、新誌面になりました！

風車 財団法人 和歌山県文化財センターの発行する情報誌が新誌面になりました。

季刊 情報誌「風車」へと変わり、これまで親しんでいたミニ情報誌「風車」からさらにパワーアップし、年四回のタイムリーな話題を皆様にご提供します。和歌山県の文化財をもっと身近に、親しみやすいものにしていきたいと文化財センター一同の願いです。

誌面 は今までのモノクロ印刷から、カラー印刷に変わり、よりリアルでダイナミックな発掘調査・建造物の保存修理の様子を皆様にお伝えします。

内容についても最新の調査成果の特

集をはじめ、その時々^{ときどき}の埋蔵文化財・建造物の短信を掲載するほか、楽しい読み物を充実させました。

ご好評をいただいた考古学の散歩道が連載企画となり、第一回目は「紀ノ川流域の古代寺院」と題して年四回の連載記事を掲載したいと思います。

さらに、埋蔵文化財・建造物のコラムを掲載した、きのくに歴史小話では、建造物課、埋蔵文化財課の両課長による裏話や小話を楽しく、わかりやすい文体でお届けしたいと思います。

皆様 からの誌面に対する要望・感想・励ましのお便りも募集しています。これからも財団法人和歌山県文化財センターと、「風車」の応援をよろしくお願いします。

(風車編集一同)

藤並地区遺跡現場つぼれ話

発見された地震痕跡^{じしんこんせき}

考古学上の遺跡調査においても様々な災害の状況を知ることが度々あります。2007年度の藤並地区遺跡調査において、地震による液状化現象^{えきじようかげんしょう}によつて生じた噴砂^{ふんさ}の跡を見つけることができました。

噴砂は、鎌倉時代から室町時代にかけての水田耕作土^{すいでんこうさくど}に覆われることから、水田が耕作されていた直前の時代もしくはこれらの時代以前に生じた大地震により引き起こされた噴砂であることが明らかになっています。



藤並地区遺跡で発見された噴砂^{ふんさ}

藤並

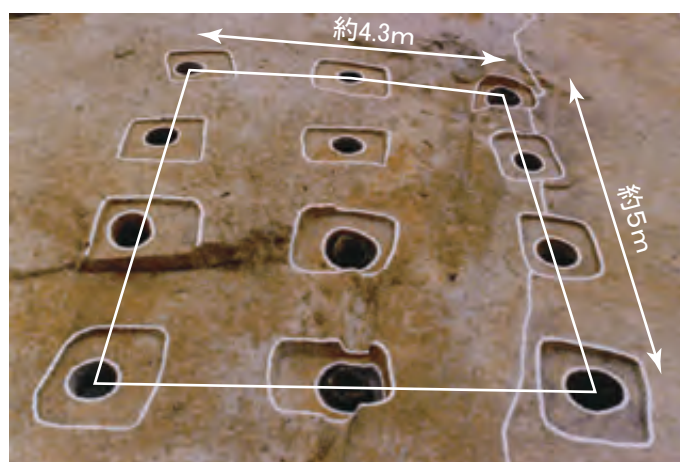
地区遺跡は有田郡有田川町天満ほかに位置する遺跡です。現在、道路工事に先立って、当センターが発掘調査を進めています。

藤並地区遺跡の周辺は、古くから開けた場所で、各時代の遺跡が密集しています。また、「土生」（土が生まれる）という地名が示すように、良質の粘土が採取されます。この粘土を使い、窯業が営まれた地域でもあります。

藤並地区遺跡に人類が始めて足跡を記すのは、旧石器時代（約一三〇〇〇年前）のことです。当時の道具である石器がまとまって見つかりました。県内では、数少ない旧石器時代の遺跡として、近くの土生池遺跡と並んで有名です。

次の縄文時代から古墳時代にかけては、人々の活動の跡が目立ちません。ただ、破片ですが、県内でも類例がまれな古墳時代の焼物製の棺（陶棺）の出土が注目されます。

藤並地区遺跡が賑わいを取り戻すのは、奈良時代（約一三〇〇年



奈良時代（約1300年前）の建物
穴の中には柱が腐らず残っていました

前）のことです。約五メートル四方の建物跡（写真）や、須恵器の窯跡（土生池窯跡）が見つかっています。土生池窯跡からは、土器以外に陶製のお寺の屋根飾り（水煙）が出土しています。当時の技術の粋を集めて作られた古代寺院とつながりがある点が注目されます。

次の中世の遺構としては、水田や墓が知られています。墓には、庶

民の使うお椀（瓦器椀）が入っているものもありました。

近世以降、水田として利用されることが多かったようです。また、昭和三〇年代までは良質な粘土を産出する土地柄を生かし瓦作りも盛んでした。

最後に、現在の発掘調査の様子をお知らせしましょう。今回、調査を進めている地点からは、鋤溝と呼ばれる耕作の跡が見つかりました。中世以降、水田か畑として利用されていた場所のようです。出土品をみると、中世の食器である瓦器が目立ちます。一点だけですが、江戸時代の貨幣である寛永通宝も出土しました。

調査は、七月も続いています。調査地は、吉備南ICを下りてすぐのところですが、調査は平日だけですが、近くを通られた際は、お気軽に見学いただければと思います。（岩井 顕彦）

藤並地区遺跡の発掘調査

特集

特集

速報展示「紀州の歩み」

五月十二日から六月三十日まで、きよくに歴史探訪館にて、第18回速報展示「紀州の歩み」が開催されました。

埋蔵文化財の分野では、六ヶ所の遺跡の発掘調査成果をパネルと出土遺物で、文化財建造物の保存修理の分野では、二件の保存修理事業の様子を、パネルで紹介しました。

今回の展示は、パネルやキャプションはもちろん、ポスターや解説のリーフレットまで、すべてセンター職員の手作りでした。そのせいか、少し地味なものになりました。そのかわり、担当者の思いがしつかり見える、手作りの良さを生かした展示になったと思います。

ここでは、展示の様子や見どころを紹介します。展示をご覧になった方もそうでない方も、速報展の雰囲気味わっていただければと思います。(岩井 顕彦)



丁ノ町・妙寺遺跡の縄文土器や石器

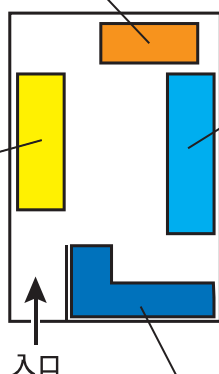


はるばる北陸から運ばれてきた石の斧を展示しました!!

神野々ー遺跡・藤並地区遺跡
田辺城下町遺跡



水槽の中には
約800年前の下駄が...



丁ノ町・妙寺遺跡・西飯降川遺跡

上には、大きな写真パネル
下には、須恵器や縄文土器を並べました。



入口では、手作りの地図と年表がお出迎え



写真満載の
文化財建造物の保存修理の分野

ひとめでわかる!! 第18回「紀州の歩み」の様子

旧中筋家住宅の未指定文化財建造物

御船 達雄

旧中筋家住宅は主屋ほか五棟が重要文化財に指定されており、現在保存修理工事中です。ところで同じ屋敷内には文化財指定されていない、茶室、味噌部屋、人力車庫があります。これらは主屋などの修理のため、いったん解体し、部材を保存していましたが、今年度から復旧修理に取りかかりました。平成二〇年度は茶室と人力車庫を組み上げます。



組み上げ中の茶室



組み上げ中の人力車庫

茶室は主屋北西に建つ、桁行三間、梁間二間、平屋建、寄棟造、瓦葺屋根の建物で、明治時代中期に建てられたものです。四畳半の茶室と水屋よりなり、面皮柱や皮付きの竿縁、垂木を多用した数寄屋建築です。修復後は公開され、茶席として利活用もされる予定です。

人力車庫は桁行三間、梁間二間半、平屋建、切妻造、本瓦葺屋根で、明治時代後期に建築されたものです。表門北西に近接し、北側に牛小屋、南側に人力車庫と便所が設けられています。人力車庫は表門から独立していますが、表門壁面には前身建物を取りついた痕跡があります。ここから同じような建物が江戸時代にもあったことがうかがえ、屋敷構成上重要な建物と言えます。ここは一般公開時の管理棟として使用される予定です。

文化財建造物課 短信

金剛三昧院客殿及び台所

下津健太郎

境内にある県指定天然記念物の石楠花も咲き終わり、梅雨を迎えて暑さが増して来しました。

今年一月より始まった工事は現在、客殿の解体を進めています。松皮屋根の葺き替えが主な工事なのですが、江戸時代初期の建築以来三〇〇年以上経つ客殿と台所は建物の歪みが目立つ



客殿「大広間」と襖絵(重要文化財)

様になり、今回の修理で柱を中心に軸組を修正する為、一部解体も必要となりました。解体といっても、客殿は方丈建築という様式の建物で、壁がほとんどありません。建具を取り外せばひとつの大きな間です。床組の解体後には、柱の不陸を調整しながら順次建て起こしをする予定です。



客殿「持仏の間」の解体状況

客殿は江戸時代中期と明治時代後期に改修を受けていることが分かりました。江戸期の改修では、柱に代わって差鴨居という大きな横架材で荷重を支える等、柱間の改造が目立ちます。明治期の改修では「持仏の間」の拡張をおこない、紙張り壁もすべて一新されています。

修理経過に関する詳しい報告は冬号にてお知らせ致します。

紀ノ川流域の古代寺院

富加見 泰彦

『日本書紀』欽明天皇13年10月条に百済の聖明王が使者を遣わし、金剛釈迦像、経論などをわが国に献上したことが記されています。これが教科書などで仏教公伝（538年）といわれるものです。しかし、蘇我、物部氏による崇仏、廃仏派の対立を経て本格的な寺院、飛鳥寺が建立されるまでにはそれから50年もの歳月を要しました。

『日本書紀』によれば「天皇より、伴造（とものみやつこ）にいたるまで、造るところの寺、造ること能はずは朕皆助け作らん」と大和の有力氏族や地方郡司級氏族に氏寺造営の奨励と援助を約束したことを記しています。その背景には、公地公民制への地方豪族の不満を懐柔するためであったといわれています。この施策によって、7世紀後半から8世紀にかけて各地で盛んに氏寺が建立されるようになります。豪族自らが檀越となり、寺院の経営者となることによって私有財産の隠れ蓑にすることができたとする見方もあります。

先進地域では郡以下の郷の単位にまで造寺活動が盛んに行われることとなりました。飛鳥時代には50カ寺以下であった寺院が『扶桑略記』によると持統天皇6年（692）には全国で545寺あったことが記されています。

紀伊国もこの仏教施策に符合し7世紀の後半から8世紀にかけて古代の官道である南海道と熊野街道に沿って14ヶ寺が建立されています。

（続く）



きのくに歴史小話

れきしこばなし

建

築彫刻の話 ①

鳴海 祥博



日光東照宮の「眠り猫」



和歌浦天満宮の「猫に蝶」

古いお寺や神社を訪ねた時「左甚五郎の作」という曰わくありげな彫り物に遭遇したことは有りませんか。「左甚五郎」の学問的真偽は証明されていません。しかし「左甚五郎」と言えば寛永十三年（一六三六）に造営された日光東照宮の「眠り猫」が有名ですが、それより三十年前の慶長十一年（一六〇六）に建立された和歌浦天満神社の「かえる股」彫刻に「眠り猫」がいることを知っていますか。

眠り猫には牡丹が添えられています。天満神社では猫のほかに「蝶」がいます。「猫」と「蝶」は中国語で「マウ」「テツ」と発音します。中国では同音の「マウ」は「耄」（七〇歳を意味する）、「テツ」は「耋」（八〇歳を意味する）になぞらえて、「猫」と「蝶」は長寿を言祝ぐ図像とされていました。牡丹は「富」の象徴です。こうしてみると、和歌浦天満神社の方が中国直伝の「眠り猫」らしいことがわかります。

建築彫刻は、メッセージを伝える手段として登場したのです。しかしやがて「彫り」の巧みさを競いあい、図像の本来の意味が忘れられる、そんな歴史の流れをこの二種の「眠り猫」の彫刻から知ることが出来るのではないのでしょうか。

発

掘屋余話 ① 掘り出し物

村田 弘

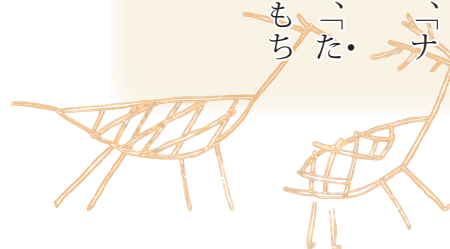
ごくたまにですが、小学校や中学校で話をさせていただく機会があります。社会科の授業の一環として、土器などを持って行き、実際に触ってもらったりして、わかりやすく考古学の話をする、いわゆる出前授業と呼んでいるものです。

こうした授業のとき、きまって出てくる質問に「これまで掘り出した中で何が一番すごかった？」というのがあります。

さすがに三十年近く発掘をやっていると、いろんなものがありますね。思わぬものが地中から出てきます。最近では、ほぼ完形に近い弥生時代の磨製石剣や鹿の絵が描かれた弥生時代の壺なんかが出てきたときには感動しました。

でも、やっぱり意外性という意味では、ナイフと機関銃でしょう。ナイフはとある建物の建替えに伴って調査をしていたときのこと。穴の中から、ナイフが何本も出てきました。後で知ったのですが、これらは犯罪で使われ、裁判も終わった後、廃棄処分されたものでした。機関銃は小学校の校庭でのこと。おそらく戦後のどさくさの中、あわてて大きな穴を掘り、何十丁もの機関銃を隠したのでしょうね。さすがにあの時は驚きました。ですから子供たちの質問には、ちよつとランボーですが、「ナイフと機関銃」と答えることにしています。

あっ、同じ質問を家内からされたら別ですよ。そのときは、「たぶん、君だろうね・・・」と返答することにしています。もちろんリップ・サービスですけどね。



『地宝のひびき』

—第3回和歌山県内文化財調査報告会—

目 時：平成20年7月20日（日）午後12時50分～午後4時45分

会 場：和歌山県立図書館（きのくに志学館）2F 講義研修室

主 催：（財）和歌山県文化財センター <http://www.wabunse.or.jp/>

県立紀伊風土記の丘

夏期企画展「きのくにの未盗掘古墳

—古代からのタイムカプセル—

期 間：平成20年7月12日（土）～9月7日（日）

主 催：県立紀伊風土記の丘 <http://www.kiifudoki.wakayama-c.ed.jp/>

和歌山市立博物館

特別展「南紀男山焼」

期 間：平成20年7月19日（土）～8月31日（日）

主 催：和歌山市立博物館 <http://www.wakayama-city-museum.com/>

現場事務所一覧

旧中筋家住宅保存修理事務所

和歌山市禰宜 148

TEL：073(477)5969

金剛三昧院保存修理事務所

高野町高野山 425 番地

TEL：0736(56)5578

京奈和自動車道遺跡発掘調査事務所

かつらぎ町西飯降地内

TEL：0736(22)2534

田辺城下町遺跡発掘調査事務所

田辺市南新町地内

TEL：0739(24)8071

藤並地区遺跡発掘調査事務所

有田川町大字天満地内

TEL：0737(52)6518

調査事務所

きのくに歴史探訪館

海南市築地 1 番地 7

TEL：073（483）4278

8	催し物案内
7	きのくに歴史小説 「建築彫刻の語」 「発掘屋余話」
6	連載コラム 考古学の散歩道 「紀ノ川流域の古代寺院」
5	文化財建造物課 短信
4	特集 速報展示「紀州の歩み」 文化財建造物課
3	特集 有田郡有田川町藤並地区遺跡 の発掘調査
2	特集 文化財センター通信「風車」、 新誌面になりました！
1	表紙 藤並地区遺跡

風車 43（2008夏号）

平成20年7月1日発行

（財）和歌山県文化財センター

〒640-8404

和歌山市湊571-1

TEL:073-433-3843

FAX:073-425-4595

E-mail:maizou-1@wabunse.or.jp

URL <http://www.wabunse.or.jp>